

光をつなぐ! ~シーズンⅣ~

DME治療戦略を炎症から考える

日時 2018年4月22日(日) 7:45~8:45

会場 第7会場 大阪国際会議場 12階 グラントック



座長のことば

座長

北野 滋彦先生

東京女子医科大学糖尿病センター眼科 教授

糖尿病黄斑浮腫（以下、DME）は治療に難渋することも多い疾患です。幸いなことに、近年では治療手段として外科的療法や薬物療法が充実してきておりますが、依然として対応に苦慮する疾患といえます。治療方法が充実している現在だからこそ、DMEの病態をしっかりと確認し、治療法を再考する機会を持つことは有用ではないでしょうか。

そこで今回は、DMEにおける「炎症」をキーワードとして、野田航介先生（北海道大学）と高村佳弘先生（福井大学）にご講演をいただくことにしました。本セミナーの内容は、必ずや今後のDME治療にお役に立つものと考えますので、是非とも多くの先生方にご来場いただきたいと思っております。

講演①

糖尿病黄斑浮腫と炎症病態



演者

野田 航介先生

北海道大学大学院医学研究院
眼科学教室 准教授

講演②

糖尿病黄斑浮腫に対する理にかなったステロイドによる治療戦略



演者

高村 佳弘先生

福井大学医学部医学科
感覚運動医学講座
眼科学領域 准教授



座長 北野 滋彦先生 東京女子医科大学糖尿病センター眼科 教授

略歴

1982年	日本大学医学部医学科 卒業	1990年~1993年	米国エール大学眼科
1982年	東京大学医学部眼科学教室 入局	1995年	東京女子医科大学糖尿病センター眼科 助教授
1985年	三井記念病院眼科	2000年	東京女子医科大学糖尿病センター眼科 教授 現在に至る
1988年	東京女子医科大学糖尿病センター眼科 講師		

講演① 糖尿病黄斑浮腫と炎症病態



演者 野田 航介先生 北海道大学大学院医学研究院眼科学教室 准教授

略歴

1995年	慶應義塾大学医学部眼科学教室 入局	2009年	北海道大学大学院医学研究科眼科学分野 講師
1998年	国立病院東京医療センター 眼科医員	2013年	北海道大学大学院医学研究院眼科学教室 准教授 現在に至る
2004年	米国Massachusetts Eye and Ear Infirmary 留学		
2007年	慶應義塾大学医学部眼科学教室 助教		

糖尿病黄斑浮腫(DME)は糖尿病網膜症の全ての病期において生じ、書字や自動車の運転など患者の日常生活に大きく影響する。そのため、本症に対する適切な治療法の確立は、現在の糖尿病網膜症診療における重要な課題となっている。近年の研究は、DMEの病態において血管内皮増殖因子(vascular endothelial growth factor, VEGF)が重要な役割を演じていることを示す一方、他の炎症性サイトカインや炎症関連分子も関与していることを示してきた。

本講演では、DMEにおける炎症病態について基礎的な観点から考えてみたい。

講演② 糖尿病黄斑浮腫に対する理にかなったステロイドによる治療戦略



演者 高村 佳弘先生 福井大学医学部医学科感覚運動医学講座眼科学領域 准教授

略歴

1996年	福井医科大学 卒業	2003年	米国ネブラスカ大学
1996年	福井医科大学 医員	2009年	福井大学眼科 講師
1996年	福井医科大学 助手	2012年	福井大学眼科 准教授 現在に至る
1997年	舞鶴共済病院		
1998年	福井医科大学大学院		
2002年	福井大学眼科 助手		

現在、糖尿病黄斑浮腫(DME)に対する治療としては、VEGF阻害薬が第一選択と認識されている。ステロイドの浮腫改善の効果も強いことが知られているが、白内障の進行と眼圧上昇という眼合併症により、使用が控えられる場合も多い。ただし眼内レンズ挿入眼では視力改善効果があることも示されており、比較的安価で済むことから、ステロイドの有用性は高い。またさまざまな炎症系サイトカインを多面的に抑制することもステロイドの特性である。内眼手術後や光凝固後には必ず炎症が伴い、それに伴い合併症も誘導される。それに対する予防、治療としてステロイドの抗炎症作用の意義は大きい。病態を理解し、場面に応じてステロイド使用の仕方を工夫することで、その有効性を生かすことができる。本セミナーでは、ステロイド治療の基礎データとそれに基づく治療戦略を提示したいと思う。